

総説

日本史で重要な吉見町周辺ゆかりの人物と史跡・文化財

倉上洋行

Historic people, landmarks and cultural assets around the town of “Yoshimi-machi” related to great historical events in Japan

Hiroyuki KURAKAMI

Abstract

This school (Musashigaoka College) is located in the town of “Yoshimi-machi” which is a rural district in the northern area of Saitama Prefecture.

Some people who lived around this town played important roles in Japanese history from the Heian era to the Kamakura era especially. For example, a Zen nun, “HIKI” had supported “MINAMOTO Yoritomo” who opened the Kamakura shogunate. And so, we should notice her achievement more.

We should utilize information about historic people, landmarks and cultural assets around “Yoshimi-machi” related to great historical events more as regional policies for tourists.

英語キーワード : the town of “Yoshimi-machi”, Japanese history, a Zen nun, “HIKI”, historic landmarks, cultural assets

はじめに

本学（武蔵丘短期大学）が位置する埼玉県比企郡吉見町は埼玉県北部に位置し、人口は平成13年頃を境に減少に転じている農村である（表1）。

隣接する市町村は、熊谷市、鴻巣市、北本市、比企郡川島町、東松山市であり、何れも埼玉県に属している（図1）。このうち「人口・経済予測モデル」が示されている都市（熊谷市、鴻巣市、北本市、東松山市）は、鴻巣市を除いて過疎化傾向にあり「衰退都市」になることが予想されている¹⁾。

このような状況を踏まえ本稿では、地域活性化のための観光政策を視野に入れて、日本史における重要な転機と関連する吉見町周辺ゆかりの人物と史跡・文化財について考察する。

1. 日本史を語る上で重要な吉見町

鷲田小彌太氏は「（アジアの各地域が植民地化されている時代に）日本が植民地化されなかったということはとてつもない大きい意味がある」として司馬遼太郎氏の考えを紹介している²⁾。

当時、日本国本土が植民地化されなかった背景を考えると、源頼朝による武家政権の樹立は無視できない。頼朝による鎌倉幕府開設には吉見町周辺ゆかりの人物が関与していたといえ

表1 吉見町の人口の推移
(町民生活課：人口動態事件簿、
住民異動月報から抜粋)

年	総人口	増減(人)
平成10年度	22,638	198
平成11年度	22,756	118
平成12年度	22,810	54
平成13年度	22,855	45
平成14年度	22,775	-80
平成15年度	22,759	-16
平成16年度	22,691	-68
平成17年度	22,660	-31

総人口は各年度3月末日現在
(外国人登録者含む)

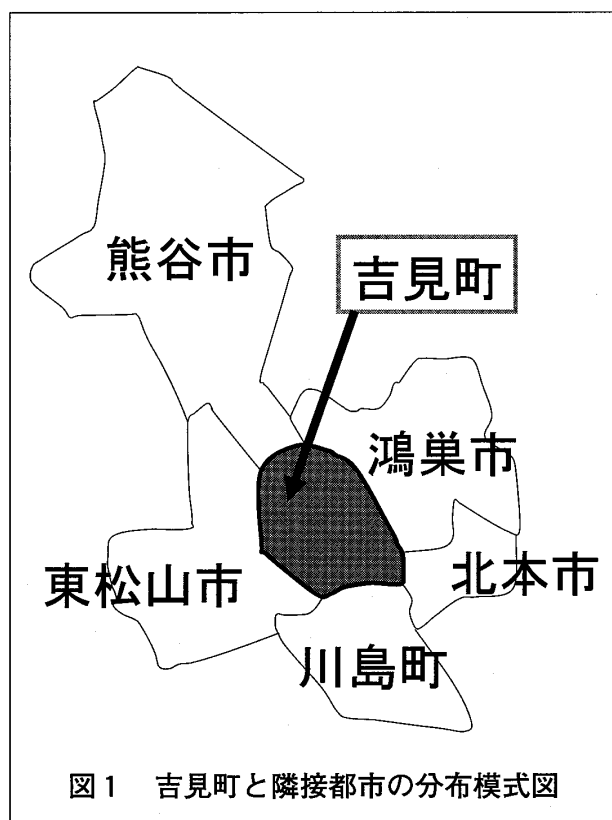


図1 吉見町と隣接都市の分布模式図

る。例えば、没落した頼朝の再興を支援した比企禪尼、そして頼朝の善戦を支援した源範頼は吉見町周辺ゆかりの人物である。

仮に、源頼朝による鎌倉幕府の開設が遅れていた場合、執権北条氏の時代に日本の植民地化を完全に阻止できなかった可能性が十分に考えられる。つまり、国家の運営基盤がより脆弱で

あったと仮定すると、元寇のような度重なる襲撃の頻度が著しく増加していた可能性は想像に難くない。その結果、日本は植民地化され、現在のような先進国になっていなかった可能性が考えられる。そういった視点で考えると、日本史における吉見町周辺の重要性は、もっと注目する価値があるように思われる。例えば、地域に根ざした歴史小説や映画製作などによる町おこしが有望といえる。

以下の項では、日本史に影響を及ぼした吉見町周辺ゆかりの史実・伝承のうち、観光政策という視点で、そのストーリー性が魅力的なものについて概説する。

2. 鎌倉幕府の開設者「源頼朝」を支えた「比企禪尼」

鎌倉幕府の起源を考える上で、「源頼朝」を支援していた「比企禪尼」の存在は欠かすことができない。平治の乱で伊豆の「蛭が小島」へ島流しになった頼朝は、約20年間に渡り「比企禪尼」から仕送りを受けることで生活を支えられていた³⁾。「禪尼」は吉見町の安楽寺(吉見観音)に住んでいたことが伝えられている^{3,4)}。

「禪尼」は没落した源家の再興を支援することで、「頼朝」による武家中心の幕府開設に寄与している。また、「禪尼」は、「頼朝」の弟にあたる「源範頼」を安楽寺に匿^{かくま}っていたとも伝えられている^{3,4)}。その安楽寺から派生した吉見町の「息障院」は「源範頼館跡」と伝わっており、県指定史跡になっている⁵⁾。

本学周辺の史跡・文化財のうち、本稿で取り上げたものについて、本学との位置関係を図2に、写真を写真1～3に示した。

3. 執権北条氏らに誅殺された「比企能員」

「比企能員」は前述の「比企禪尼」の甥にあたる。「源頼朝」は「禪尼」の恩顧に報いて「能員」を幕府の重臣に迎えた³⁾。「能員」は後に、政権を担う「13人の合議制」の一員となるが、幕府内で益々権力を伸ばし、「北条時政」を脅かす存在になった³⁾。そして、「能員」は北条氏との確執の中で誅殺された⁶⁾。

「能員」が誅殺されずに、首尾よく主権を握ることができていたならば、「能員」の日本史

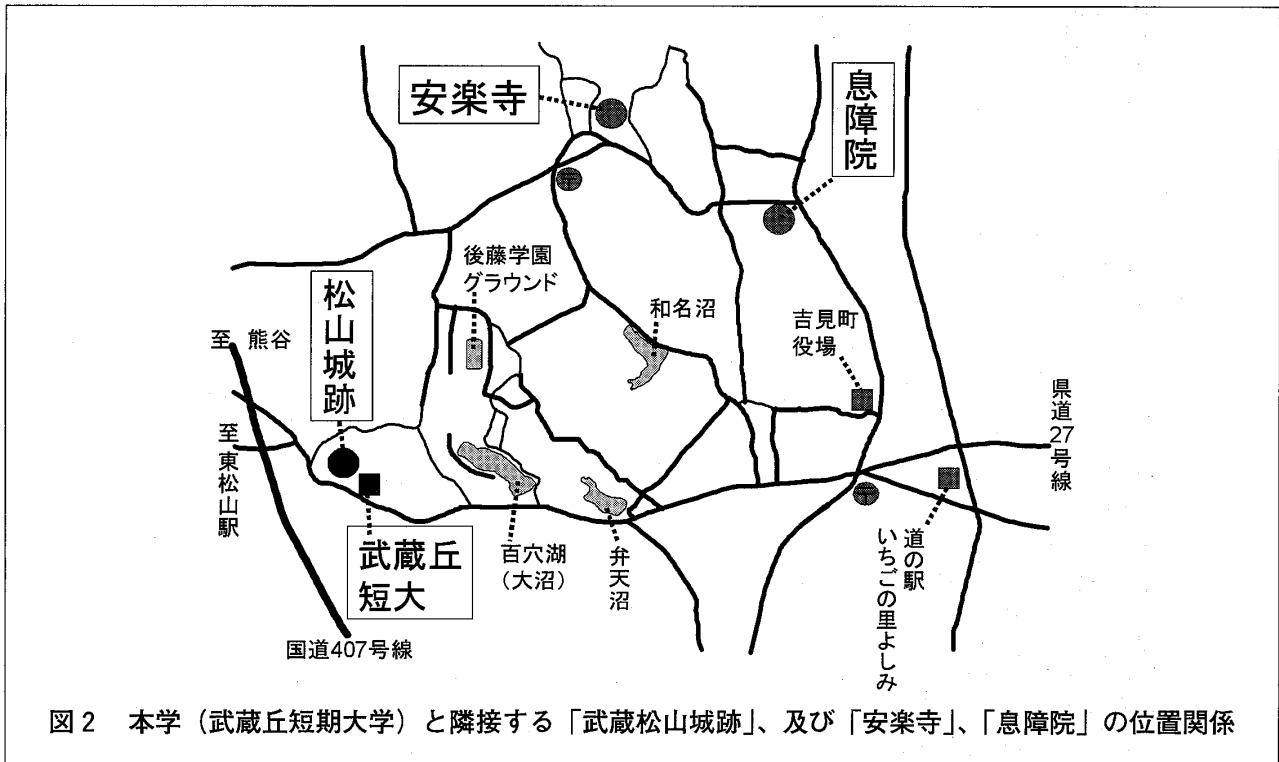


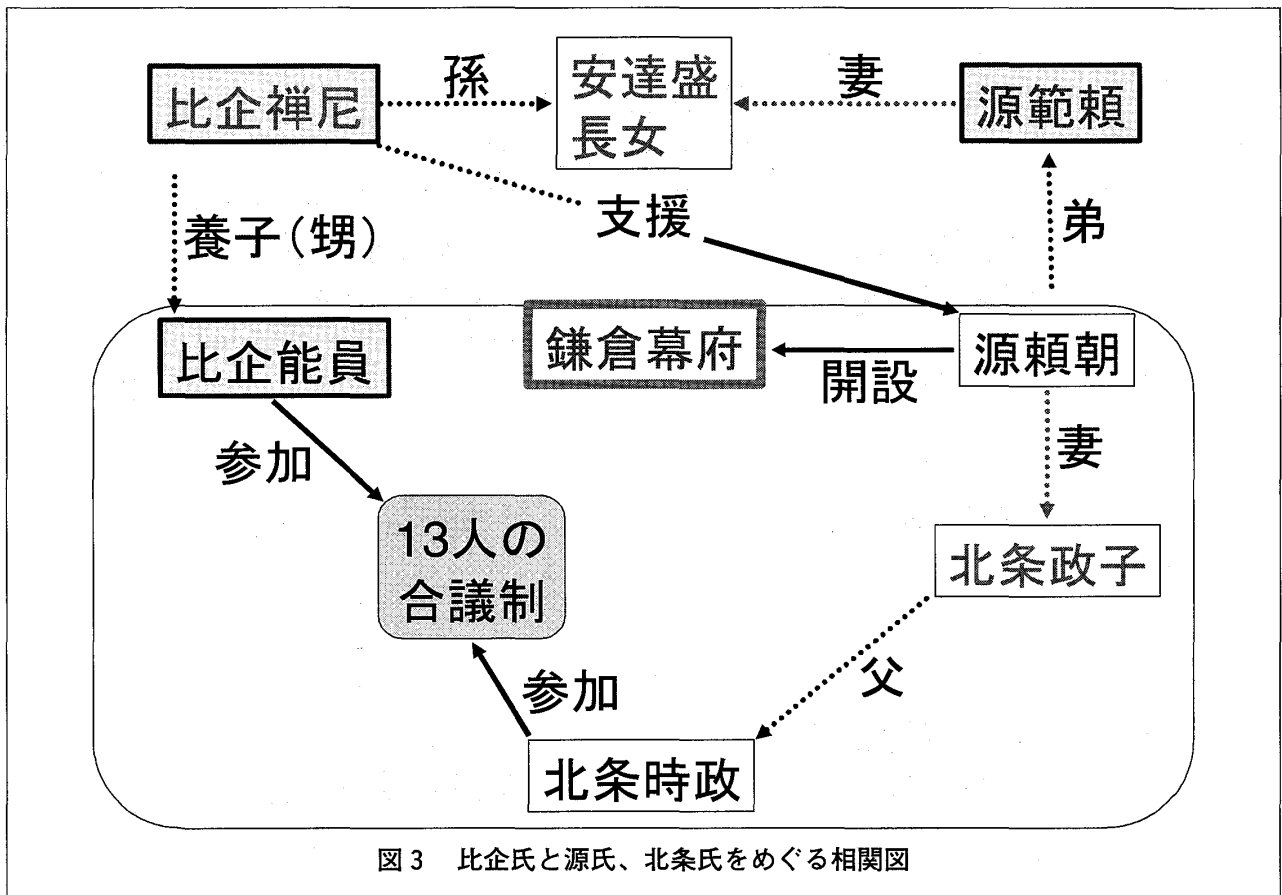
写真1 比企禅尼、源範頼ゆかりの「安楽寺」に位置する『三重の塔』（埼玉県比企郡吉見町御所）



写真2 「息障院」(史跡『源範頼館跡』)(埼玉県比企郡吉見町御所)



写真3 「武蔵松山城跡」(埼玉県比企郡吉見町北吉見)遠景(写真左上)と
「武蔵丘短期大学」(埼玉県比企郡吉見町南吉見)の校舎(写真右上)



における知名度も一層向上していたと考えられるし、「能員」と関係が深い比企地区の一層の繁栄がもたらされていた可能性が考えられる。このように、吉見町周辺ゆかりの人物が源氏や北条氏と密接な関係にあったこと⁶⁾を相関図に示した(図3)。

4. 武蔵丘短大付近に陣城を築いた「新田義貞」と鎌倉幕府討幕

北条氏の家督とその被官の勢力が強くなり、御家人や朝廷による幕府に対する反発が強くなると⁶⁾、鎌倉幕府討幕に向けての動きが全国的に高まった。このうち、新田義貞が討幕に向けての陣城を築いた地点が武蔵丘短大の敷地を含む武蔵松山城(吉見町)の起源と伝わっている⁷⁾。この討幕の流れは後醍醐天皇による「建武新政(親政)」と関連した流れであり、同時に「足利高氏(後に『足利尊氏』に改称)」が幕府設置の「六波羅探題(京都)」を攻撃している(図4)。

家紋・系図に詳しい播磨屋によると、利仁流藤原氏の流れを汲む「後藤基明」は後醍醐天皇

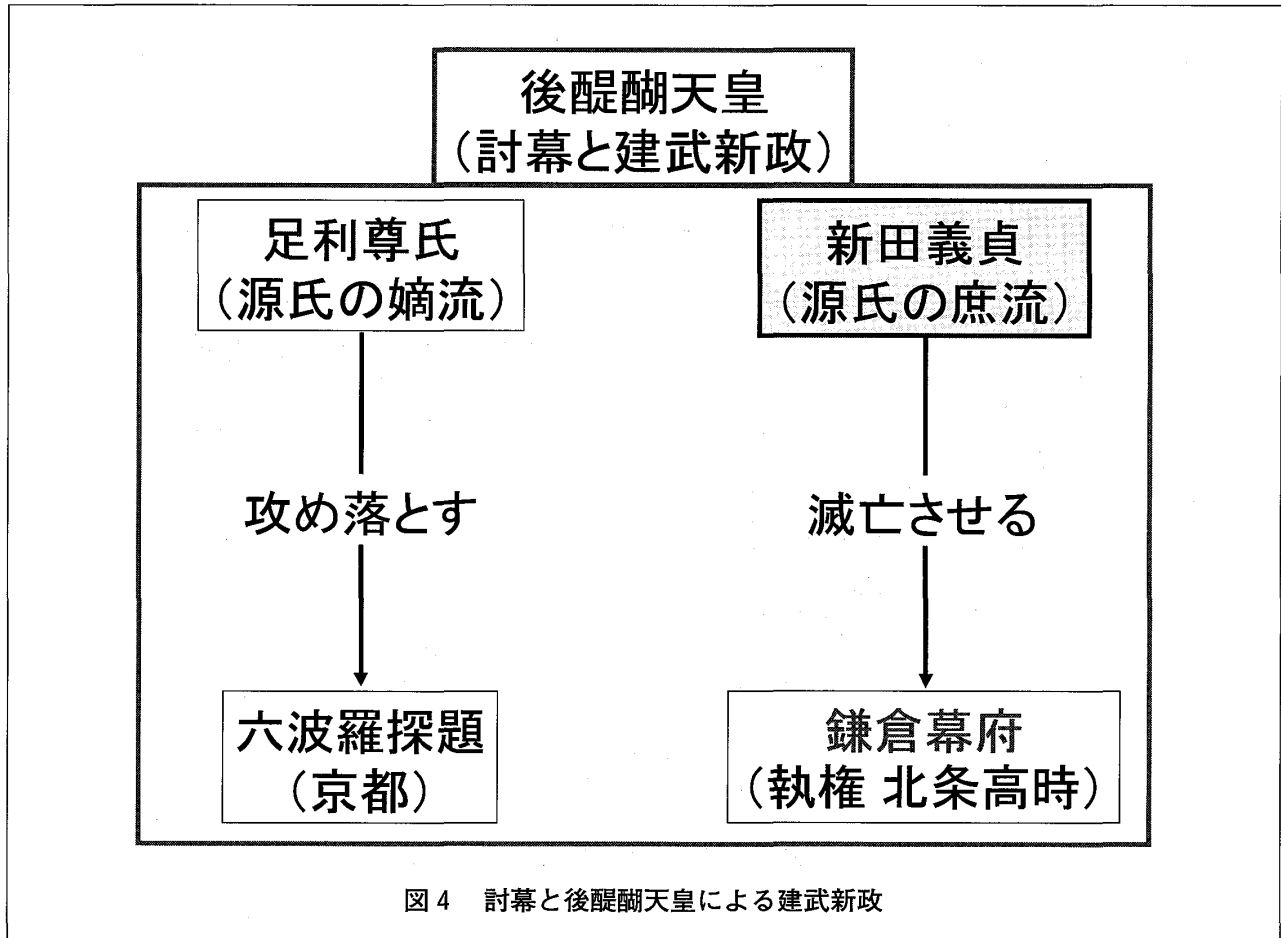
に尽くし、討幕に貢献している。この頃「基明」は「春日山城(播磨)」の城主となった。後に「基明」は「赤松円心」らと共に「新田義貞」の軍と戦い、九州に落ち延びていた「足利尊氏」の東上を支援している⁸⁾。ちなみに、「大阪冬の陣・夏の陣」で最後まで豊臣家に忠誠を尽くした「後藤又兵衛」は槍の又兵衛として有名だが⁹⁾、後藤家の系図によると「又兵衛」こそ「基明」の後裔である⁸⁾。

5. 源範頼と初代武蔵松山城主「上田友直」をつなぐ「吉見氏」

「源範頼」が「頼朝」により伊豆に配流(後に誅殺された公算が大きい)された後、範頼の子孫は吉見氏に改姓し、吉見の地に4代に渡り住んでいたと伝えられている¹⁰⁾。また、武蔵松山城の初代城主「上田友直」は吉見氏の後裔と伝えられている。すなわち、「友直」は源氏の後裔である可能性が考えられる。

6. 清和天皇と源氏嫡流をつなぐ「源経基」

吉見町に隣接する鴻巣市に県指定史跡「伝源経基館跡」がある^{3,5)}。同館は清和天皇の孫にあ



たる六孫王経基（後の源経基）が住んでいたと伝わるが、鴻巣市の発掘調査（1987年）では未だ確証は得られておらず³⁾、さらなる調査が必要である。経基は武家の名門清和源氏の祖であることから、今後の調査次第では鴻巣市が日本史における重要な地点になり得る可能性は否定できない。

館跡の規模は、東西95m、南北85mに達し、同館の所有者は名門家であった可能性がある。しかし、同館は平安時代以降に増改築が行われた公算が大きいことから、「経基」の時代に、どのような規模であったかについては、さらなる検証が待たれる。

おわりに

本稿では、本学が位置する吉見町周辺で日本史の転機に関わってきた人物に焦点を当てて、そのゆかりの史跡・文化財に関連した史実・伝

承の重要性について考察した。今後は、さらなる情報収集、及び検討を重ね、地域活性化につながるような観光政策等に役立てたいと考えている。

参考文献

1. 日経ビジネス EXPRESS：繁栄か、衰退か 2030年の693市人口ランキング、日経BP社、<http://nb.nikkeibp.co.jp/free/ranking/20020415/2/kantou/>、2006年11月17日アクセス。
2. 鷲田小彌太：司馬遼太郎。人間の大学 人生の基本を学ぶために、PHP研究所、東京、2004。
3. 西野博通：歴史ロマン・埼玉の城址30選、埼玉新聞社、埼玉、2005。
4. 吉見町町史編さん委員会：吉見町史上巻、木耳社、埼玉、1978。

5. 埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部
会：歴史散歩⑪埼玉県の歴史散歩、山川出
版社、東京、2005。
6. 埼玉県編集：新編埼玉県史図録、埼玉県発
行、埼玉、1993。
7. 太丸伸章：歴史群像シリーズ特別編集決定
版図説・日本名城集、学習研究社、東京、
2004。
8. 播磨屋：播磨後藤氏、地方別武将家一覧、
播磨屋、[http://www2.harimaya.com/sengoku/
html/h_goto_k.html](http://www2.harimaya.com/sengoku/html/h_goto_k.html)、2006年9月30日アクセ
ス。
9. 吉田龍司：別冊宝島1303号 日本の「名
城」伝、宝島社、東京、2006。
10. 吉見町町史編さん委員会：吉見町史下巻、
木耳社、埼玉、1979。